

令和7年度 全国学力・学習状況調査について

身延町教育委員会

文部科学省では、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、調査の結果から見えてくる教育施策の成果と課題を検証して改善を図り、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てるため、例年4月（令和2年度は新型コロナウイルス感染症まん延防止の観点から中止、令和3年度は5月実施）に小学校6年生、中学校3年生を対象に「全国学力・学習状況調査」を実施しております。今年度は4月17日に実施し、身延町では小学校6年生36人、中学校3年生44人が参加しました。

町教育委員会では児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証して改善を図っていきます。なお、この調査結果については、国語、算数・数学、理科のみ実施されたもので、全ての学力を測るものではないことをご理解ください。

児童生徒に対する調査

◎教科に関する調査

小学校… 国語、算数、理科

中学校… 国語、数学、理科

小学生（36人）	全国平均と比べて	県平均と比べて
国語	ほぼ同じ	ほぼ同じ
算数	やや下回る	ほぼ同じ
理科	ほぼ同じ	ほぼ同じ

中学生（44人）	全国平均と比べて	県平均と比べて
国語	ほぼ同じ	ほぼ同じ
数学	やや下回る	ほぼ同じ
理科	ほぼ同じ	ほぼ同じ

※ほぼ同じ… ±5ポイント未満の違い
※やや上(下)回る… 5ポイント以上の違い
※上(下)回る… 10ポイント以上の違い

身延町の調査結果は、小学生中学生ともに算数・数学が全国平均をやや下回っていますが、その他は全国平均・県平均とくらべてほぼ同じという結果となっています。

◎質問紙調査

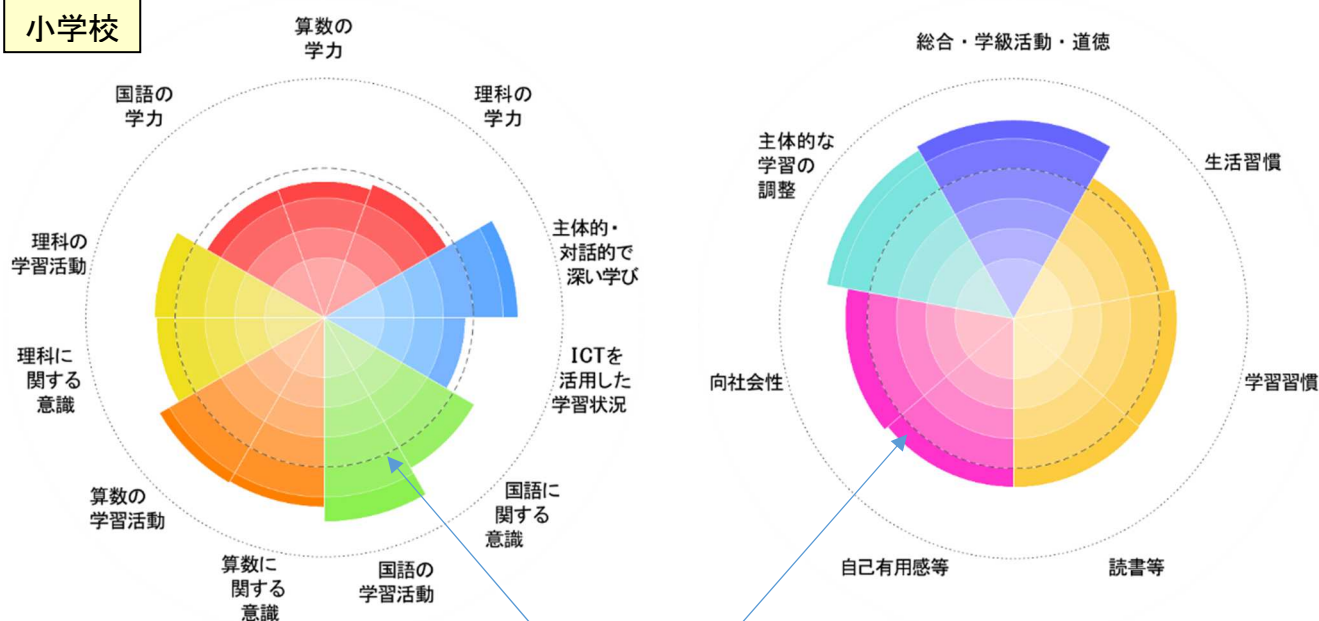
「将来の夢や目標を持っていますか?」「人が困っているときは進んで助けていますか?」「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか?」「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、P C・タブレットなどのI C T機器を、勉強のために使っていますか?」など児童86項目、生徒76項目の設問に回答し、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関して児童生徒の様子や意識を測るものです。

回答を総合的にまとめたものが下記の表です。小学生では、「自分で学び方を考え、工夫する。」「学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの良さを生かして解決方法を決める。」などの「総合・学級活動・道徳および主体的な学習の調整」、中学生では、「人が困っているときは進んで助ける。」「自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。」などといった「総合・学級活動・道徳および向社会性」が、大幅に全国平均を上回っています。

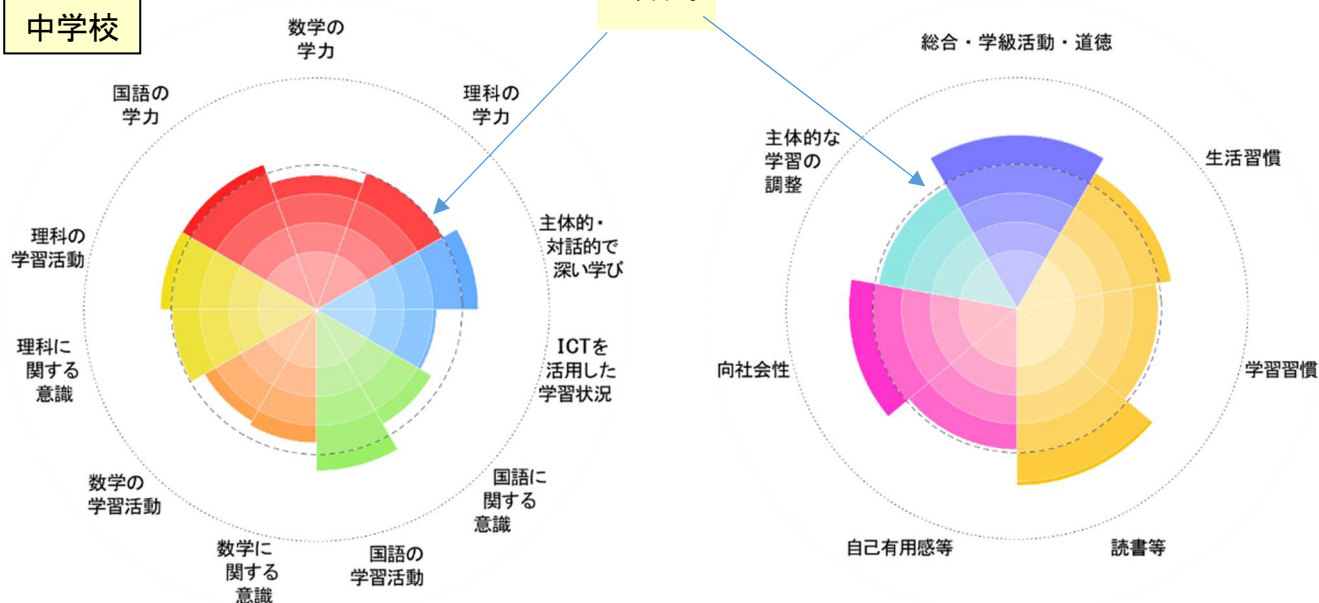
[教科を中心とした学力・学習状況]

[その他の学力・学習状況 (学習習慣、自己有用感等)]

小学校



中学校



学校に対する調査

◎質問紙調査

教職員の資質能力向上や、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況等に関して、小中学校ともに94項目の設問に学校が回答するものです。

調査結果から見える特徴は、教職員が生徒の学習状況に即したよい点や進捗状況を積極的に伝えたり、改善すべき点を改善できるよう手立てを講じるなど、指導改善、学習改善の向上に努めていることです。また、タブレット型パソコンや電子黒板等のICT機器を積極的に活用し、学力の向上・定着を図っていることも特徴です。さらに、学級活動では、話し合いを生かして児童生徒一人ひとりが意思決定できるような指導を行うほか、特別支援教育についても理解し、児童生徒の特性に応じた指導上の工夫も行っています。

総 括

児童生徒の質問紙のうち、「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか?」「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか?」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか?」などに関する事柄が全国平均を上回っています。

今年度、小中学生ともに全国平均をやや下回った算数・数学については、基礎学力の定着に向けた取り組みを進めていきます。他の教科は全国平均県平均とくらべてほぼ同じという結果となりましたが、学校や家庭、町での取り組みにより学力の底上げを今後も図っていきます。

学校の教育活動だけでなく、より一層の家庭学習の定着、向学館事業等における学習サポート、町における教育環境の整備等、引き続き学校、家庭、地域、町が連携して、確かな学力と豊かな人間性を育んでいきます。